

## 報 告

## 韓国リハビリテーション工学協会(RESKO)カンファレンス 2012 出席報告 — Report of RESKO Conference 2012 —

RESJA 国際担当理事 大鍋 寿一 Hisaichi Ohnabe

(新潟医療福祉大学 名誉教授)、(ピツツバーグ大学 客員教授)

### 1. はじめに

韓国は 2007 年に韓国リハビリテーション工学協会 (Rehabilitation Engineering and Assistive Technology Society of Korea (RESKO)) を設立、第 1 回韓国リハ工学カンファレンス<sup>1)</sup> が釜山で開催された。

日韓の連携を促進するため 2011 年 11 月第 5 回 RESKO カンファレンス時、徳島アグリーメントに沿って、RESJA と RESKO の協力協定 MOA<sup>2)</sup> が結ばれた。2012 年 8 月の RESJA カンファレンス (福岡) に続き、11 月に MOA 後韓国でははじめての第 6 回 RESKO カンファレンスが全州で開催され出席したので報告する。

### 2. RESKO カンファレンスでの論文発表状況

RESKO カンファレンス講演論文集でタイトル、著者とアブストラクトが英語併記されたもの 36 件 (56%)、タイトルと著者のみ英語併記されたものは 17 件 (27%)、英語のみのものは 11 件 (17%)、(内日本からのもの 7 件、台湾リハ工協会 1 件、インドネシア (日本留学生) 2 件、全部韓国語のものはゼロであった (図 1)。

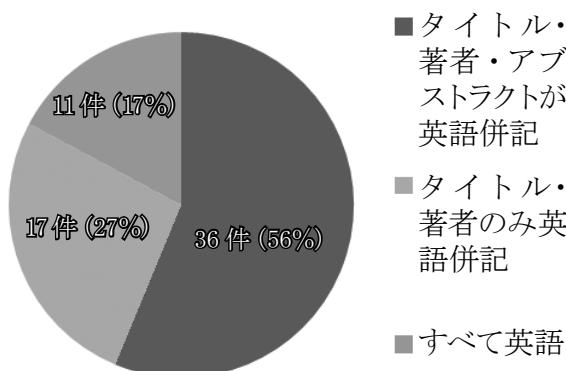


図 1 RESKO での論文発表で英語の使用状況: タイトルと著者、アブストラクトを英語でも併記されていたものの比率

### 3. 日本からの参加発表

日本からの参加発表は RESKO が当初設定した締切時にはゼロであった。RESJA としても再勧誘を行うとともに RESKO が独自のチャンネルでも勧誘を行った結果、RESJA の会員から 3 件 (報告者の分を入れると 4 件)、非会員から 3 件であり、合計 7 件であった。それらは次の通りである。

1) 半田 隆志 (埼玉県産業技術総合センター)

「座位姿勢計測機器と葬儀用和紙製義肢の開発について」<sup>3)</sup>。

2) 上野忠浩 (横浜市総合リハビリテーションセンター)

「重度肢体不自由者に対する多機能携帯電話用インターフェースの検討」<sup>4)</sup>。

3) 藤田 良平 (大阪電気通信大学 医療福祉工学部)

「義足歩行計測・評価システムを用いた Roll-over Shape による義足足部・足継手の機能評価」<sup>5)</sup>。

4) 野方文雄 (岐阜大学)

「胸部振動から導出した心臓運動」<sup>6)</sup>。

5) なお、インドネシアから岐阜大学へ留学生中の M. I. Rusydi も 2 件の論文発表を行った<sup>7),8)</sup>。

6) 報告者は、下記を総会時講演した<sup>9)</sup>。

「日本のリハビリテーション工学と支援技術の動向」のタイトルで世界障害レポート (リハビリテーション工学技術関連)、日本の人口 (高齢者人口) 動向、ICF モデル、ユニバーサルデザイン / 共用品、世界のリハビリテーション工学関連協会の連携、倫理審査 (IRB) —これは日本の関連学協会では日本生活支援工学会が積極的に行っており、RESJA 関連活動として復興支援事業・重度障害者用意思伝達装置、介護ロボット産業の 2035 年までの予測および第 23 回リハ工学カンファレンス in 新潟で共同開催した車いす国際修理技術交流会の「空飛ぶ車いすプロジェクト」日本・韓国・台湾によるタイでの連携ボランティア活動についても紹介した。

#### 4. 台湾リハ工協会 (TREATS) からの出席

台湾 TREATS からは会長の Dr.Chang が Rehabilitation Engineering and Assistive Technology in Taiwan, Opportunity and Revival (Part 1, 2) 台湾リハビリテーション工学・支援技術の現状と未来展望 (中国語より報告者の推定訳) について総会時講演された。特記事項は次の通りである。

- 1) 2003 年 Ministry of Education in Taiwan has funded Assistive Device Center for Learning for College Students with disability.
- 2003 年に台湾文部省は障害のある大学生が学ぶための福祉機器センターを設立した。2004 年には高校生にまで拡大された。
- 2) 視覚支援機器は淡江大学、聴覚支援機器は高雄師範大学、義肢装具は中山医科大学医院が中心に学生を支援している。

#### 5. カンファレンス

会期前日 11/1 (金) に外国からの参加者のための歓迎会 (計 18 名参加ー外国人無料) が行われた。英語セッションは 2 セッションで 11 件あり、それに Plenary Lecture (総会講演) が 3 件 (RESJA, TREATS, KITECH (Korea Institute of Industrial Technology 韓国生産技術研究院))。

KITECH の Current Status of Wellness Technologies「ウェルネス技術の現状」には韓国の元気のよいこの分野での発表に非常に興味を持っていたが講演は韓国語であった)。図 2 は日本・台湾からの出席者代表・RESKO 代表による会場での記念撮影である。



図 2 日本・台湾からの出席者・RESKO 代表による会場での記念撮影

#### 6. 第 28 回リハ工学カンファレンス in いわて・ポスター

第 28 回リハ工学カンファのポスター (実行委員会

作成) を会場入り口に掲示してもらうとともに、報告者のプレゼン時最後に提示した。チラシは RESKO カンファ実行委員会で配布していただいた。

#### 7. 結論

- 1) 韓国 (RESKO) の場合自分たちのやっていることを英語で世界に発信しようとする意気込みが強いことがわかる。RESJA もタイトル、著者とアブストラクトを英語併記で書くのを標準とすべきであろう。その方が国内にも、海外にも知ってもらえると共に、このグローバル化した世界で超高齢社会の先頭を走っている一員として世界に貢献できるし、日本の高齢者・障害者にとっても貢献できると思われる。
- 2) RESJA には世界・アジアの当事者同士の連携からもますます英語での Out Put が期待される。

#### 【参考文献】

- 1) 大鍋・古井・田中、第 1 回韓国リハ工学カンファレンス出席報告、リハビリテーション・エンジニアリング、Vol. 23, No. 1 (2008), pp.54, 55.
- 2) 大鍋、日韓リハビリテーション工学協会協力協定締結報告、リハビリテーション・エンジニアリング、Vol. 27, No. 2 (2012), pp.105-108.
- 3) Takashi Handa, Development of Seated Posture Measurement Tools and Prosthetic Hand Made of Paper, Proc. RESKO Tech. Conf. 2012, pp.140, 141.
- 4) Tadahiro Ueno, Takuro Noda, A development of an interface to operate Smart phones for quadriplegic people, Center, Proc. RESKO Tech. Conf. 2012, pp.150, 151.
- 5) Ryohei Fujita, Shoji Morimoto, Measurement of Roll-over Shape of Prosthetic Feet by Using an Ambulatory Gait Monitoring System, Proc. RESKO Tech. Conf. 2012, pp. 142-145.
- 6) Fumio Nogata, Yasunari Yokota, Yoko Kawamura, Heart's Motion Derived From Vibration of the Chest, Proc. RESKO Tech. Conf. 2012, pp. 227-229.
- 7) M. I. Rusydi, T. Okamoto, M. Sasaki, S. Ito, Line of Sight Estimation from EG Signal with Variation of Electrode Position for Human Machine Interface, Proc. RESKO Tech. Conf. 2012, pp. 234-239.
- 8) M. I. Rusydi, Y. Mori, T. Okamoto, M. Sasaki, S. Ito, Using EOG Signal to Control Robot Manipulator, Proc. RESKO Tech. Conf. 2012, pp. 240-245.
- 9) H. Ohnabe, Current Trends of RehabilitationEngineering and Assistive technology in Japan, Proc. RESKO Tech. Conf. 2012, pp. 3-18.